

HHCA
オンラインセミナー
2025年4月29日

『ひと・モノ・作業・場面への適応支援に向けて』
～つながり への“いとぐち”～

「関わりあそび」の大切さ ～関りのいとぐちの概要～

「子どもの得意なあそび」での“関わりあそび”
本人から積極的にあそびに関わる

相手と触れ合い・スキンシップ・褒める・賞賛
(選好的あそび・心地よい関わり・空間・時間)

場面・状況・環境

- ・好きな遊び
- ・関わる、関わられる楽しさ
- ・褒められるうれしさ
- ・心地よい場所と時間

快

「快」感情

「楽しい」

「心地いい」

「居心地良い」

オキシトシン分泌(信頼)
セロトニン分泌(安心)
⇒信頼感、愛情を促す

+

「快」・「楽しい」・「好き」
⇒より「快」感情を増す

扁桃体

好きな事や楽しいと思う事は
扁桃体からの“好き”の情報を
受けて、“関わりあそび”の記
憶が定着しやすくなり、長期記
憶に結びつく

子どもが“見通し”をもてるように

活動への見通しを持てるような関わりが必要

子どもの得意な活動から開始し、その活動の内容に

- ・対象物への注意やその変化の知覚
- ・对人的関わりの導入(本人の感情に寄り添う)
- ・場面共有と理解を通じた相手との共感と役割行動
- ・活動の成功感と達成感の獲得
- ・報酬としての賞賛を受ける
- ・活動への面白さと興味の発展etc

次回の見通しが
もてる

次回も

- ・この場所で
- ・この人と一緒に
- ・この遊びをすると
- ・〇〇が出来きるから
- ・楽しみになる

⇒『活動の見通しが持てる経験』の機会を、本児が「生きやすさ」を目指した環境(人的・物的・手順的など)作りのための理解と学習となり、その人らしい暮らしに結び付くものと考え